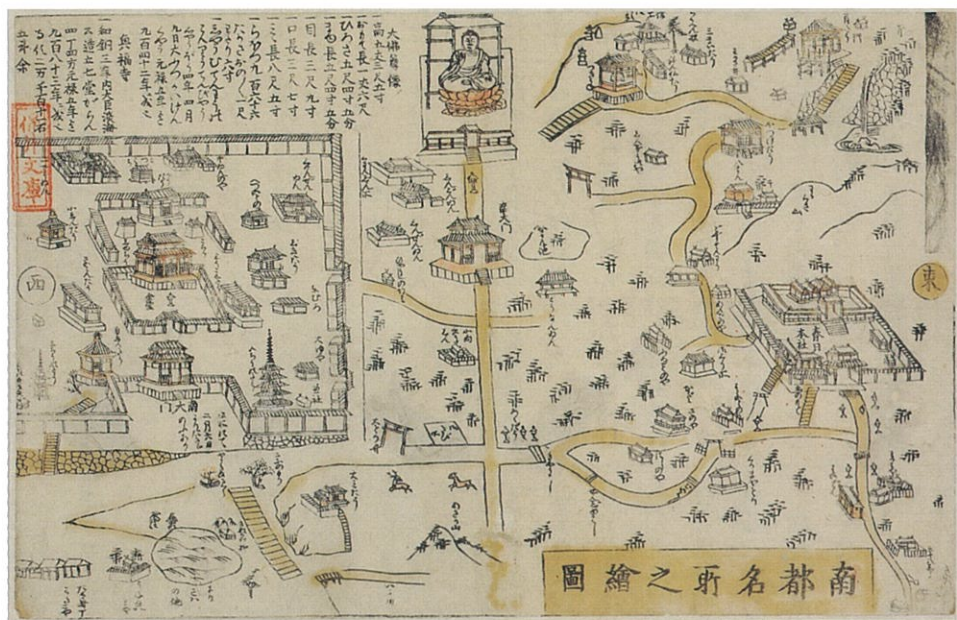


やまとの名品 天理図書館



なんどめいしょのえず
南都名所之繪圖

元禄5年(1692)頃刊 1枚

縦31cm 横43cm

奈良観光の目玉と言えば、東大寺の大仏さんを思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。

本絵図は、元禄五年（一六九二）に奈良で作成されたと思われる一枚の刷り物です。中央奥に東大寺、左手に興福寺、右手に春日大社、中央手前付近には鹿が描かれています。

ところで、本絵図中の大仏に違和感を覚えませんか。後の時代に刷られた右下の挿絵と見比べてください。一目見て分かるとおり、元禄五年の本絵図には立派な大仏殿がありません。

これは、決して大仏を「見せる」ためのデフォルメではありません。戦国時代に二度目の戦

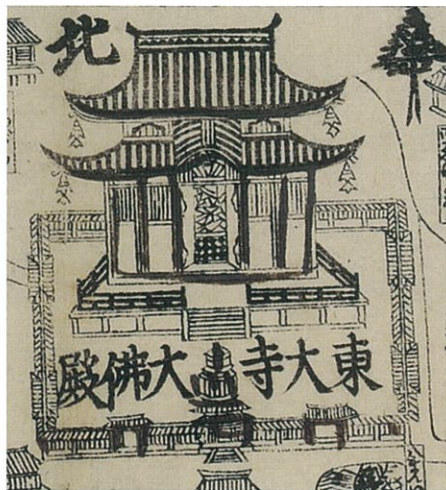
火を受けてから、

一〇〇年以上もの間、大仏殿はなく、ただ仮補修された大仏があるのみでした。

元禄五年という年は、ようやく大仏が再興され、仮設の大仏殿が設けられた年なのです。

本絵図は、新しい大仏を一目見ようとする参詣者のために作成された、観光案内マップのようなものと言えます。本絵図を片手に、多くの参詣者が大仏を見に来たことでしょう。

ただ、元禄五年時点の大仏殿



18世紀初頭の東大寺（『ならめいしよゑづ』より）

はまだ仮設のままです。それから十七年を経た、宝永六年（一七〇九）に大仏殿は復興し、現在とほぼ同じ形の建物が世に現れることとなります。

素朴な絵図ですが、豊かな物語を紡いでくれる貴重な一枚です。（天理図書館 澤井廣次）

天理図書館のお知らせ Tel : 0743 - 63 - 9200 <https://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

○本絵図および『ならめいしよゑづ』は、10月19日～11月10日開催の、天理図書館開館89周年記念展「奈良町－江戸時代の「観光都市」を巡る－」に出品します。

○10月の休館日：18日・22日・26日・31日

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）